



美濃加茂 24景

(問)みのかも文化の森／美濃加茂市民ミュージアム ☎28-1110

20 馬串山 まぐしやま

牧野から下米田町小山へ向かうと、右手に標高143メートルの馬串山があります。その山頂に戦国時代、金山城(現可児市兼山町)の城主森長可が、城を築きました。天正10(1582)年のことです。

当時、敵対していた加治田城(現加茂郡富加町)の城主斎藤利堯らは牛ヶ鼻砦(現美濃加茂市森山町、「古井の天狗山」辺り)を築いており、これを攻めようとするための臨時的な「陣城」だったようです。

馬串山の南は木曾川右岸を東西に行き来するための街道でした。それを山裾に沿っていくと、「下米田町今」交差点に至り、現在の主要道は北の川辺町、西の青柳橋から森山町、南の可児市へと向かうことのできる分岐になっています。

明治44(1911)年の地図をみると、馬串山の麓から北西に、まっすぐ伸びた街道が記されています。今でも行き交うことのできるその道は、青柳大橋の辺りまで続いており、目の前は牛ヶ鼻砦や森山町の街並みになります。

馬串山は、戦国時代から現在も人々が行き交い、見つめ続けてきた風景です。